

制度改正により、男性の育児休業が取りやすくなりました。

夫婦で取得すると、
1歳2か月まで
休業できます。

妻の産休中に夫が
休業した場合、夫は
2度目も取得できます。

配偶者が
専業主婦（夫）でも
休業できます。

新制度の詳細は「イクメンプロジェクト」サイト内で紹介しています。

「イクメンプロジェクト」ホームページ

- 「イクメン宣言」（個人）、「イクメンサポーター宣言」（個人・団体）などの参加型プロジェクトにより、社会的気運を醸成していきます。
- 「イクメン宣言」をした方の中から、毎月「イクメンの星」を選定し、ホームページ上でご紹介します。
- その他、企業の取り組み事例ご紹介や、育児休業制度の解説など、イクメン&サポーターのためのお役立ち情報が満載です。

<http://www.ikumen-project.jp>



推進チームメンバー

- 安藤哲也氏（座長）
（NPO法人ファザリング・ジャパン代表理事）
- 岡康道氏
（タグボート代表）
- 小室淑恵氏
（（株）ワーク・ライフバランス代表取締役社長）
- 山田正人氏
（横浜市副市長）

- 渥美由喜氏
（（株）東レ経営研究所研究部長）
- 駒崎弘樹氏
（NPO 法人フローレンス代表）
- 佐藤博樹氏
（東京大学教授）



No. 12

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



MEN
イクメンプロジェクト

育児を楽しむ男たちが社会へ発信！ イクメンプロジェクト、始動

育てる男が、家族を変える。社会が動く。

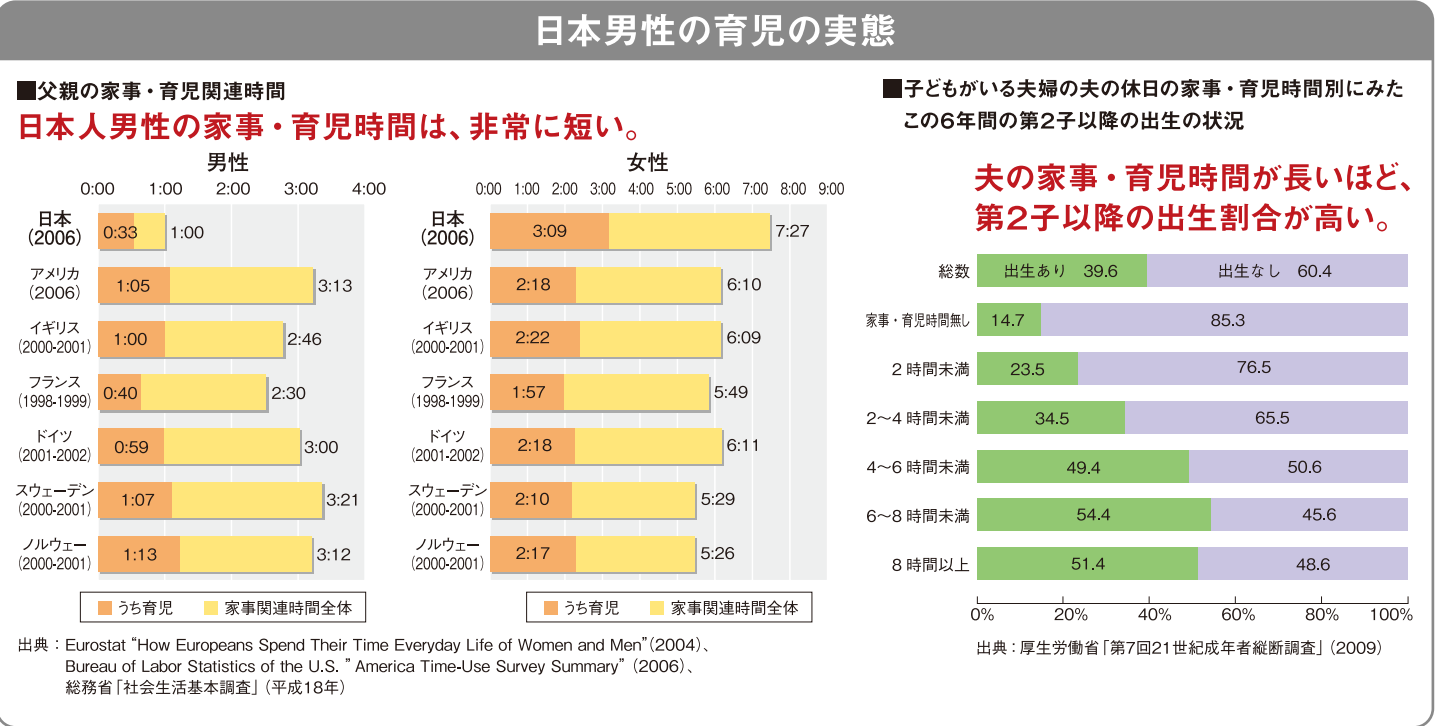


「育」を象徴的にデザインしたロゴマーク
ロゴマークでは、子育てする父親が家族のあり方を変え、自分自身も成長し、やがて社会の成長にもつながっていくというプロジェクトの意義を、「育」の漢字で象徴的に表現しています。このロゴマークに「育てる男が、家族を変える。社会が動く。」というスローガンを掲げ、プロジェクトの使命を伝えていきます。

プロジェクトの背景

多くの男性は、育児に意欲を持っています。

現在、約3割の男性が「育児休業を取得したい」と希望している一方で、実際の取得率は1.72%にとどまっています。また、日本の男性が家事・育児をする時間は他の先進国と比べて最低水準となっており、そのことが子どもをもつことや妻の就業維持に対して悪影響を及ぼしています。厚生労働省では、男性の育児休業取得率を現状の1.72%から2017年度には10%に、2020年度には13%に上げることなどを目標に掲げ、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の実現に取り組んでいます。



プロジェクトの内容

サイトを情報発信の起点として、さまざまな活動を展開

イクメンプロジェクトでは本サイトを情報発信の起点とし、イクメンとイクメンサポーターのプロジェクト参加を推進していきます。趣旨にご賛同いただける個人の方、企業、自治体等団体の方の参加をお待ちしています。

イクメン宣言／企業事例紹介



人生最終目標「世界一のパパになる!」

東京都 30代 1児の父



娘と触れ合えるときは、今しかない!
子供と正面からじっくり向き合い、
一緒に笑って幸せな時間を作り出します。
ママには負けないぞ!!

大阪府 30代 1児の父



- 私は、育児を通して子供だけではなく、ママ、自分も含めた家族全体の笑顔を増やすことを誓います!
- 私は、つらいこともたくさんあるでしょうけれども、育児を全面的に楽しんじゃうことを誓います!
- 私は、育児を通じて、地域社会やNPOなど会社の外とのつながりをも深め、人生を豊かに楽しくすることを誓います!
- 私は、子育てを理由に、自分ができなかったこと、今更一人で始めるのは恥ずかしいことなどを、恥も外聞もなく、もう一度やり直し、子供と一緒に成長することを誓います!

茨城県 30代 1児の父



株式会社ベネッセコーポレーション

株式会社ベネッセコーポレーションでは、「社員の仕事と生活との調和が図られることにより、貴重な労働力の継続的な確保とパフォーマンスの維持向上」を基本的な考え方に、男女区別なく、育児・介護の両立支援策や、スーパーフレックス制度・在宅勤務制度等の時間や場所の柔軟性を高める施策を推進しています。